

30th
Anniversary



2017
No.313 4月号

2017年4月19日発行
■発行責任者／佐藤幸雄 ■編集・制作／(株)プロトリオス
■発行／(株)NGP 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F TEL03(5475)1200

定価／1部30円

全国整備工場の皆様へ
NGP組合員200拠点がお届けする
お役立ち情報

News

交通事故件数の減少、少子高齢化による人口減が顕著に

自動車修理市場の縮小を受け、 車体修理工場に求められる対応とは？

交通事故総合分析センターの発表によると、2016年中の交通事故発生件数は49万9,201件で、前年より3万7,698件（7%）減少していました。近年、自動車の保有台数が横ばいに推移するなか、事故件数は2004年を頂点として減少傾向にあります。その最大の理由はやはり、先進予防安全装置の急速な進化・普及にあります。

国土交通省の発表によると、2015年に生産された国産乗用車における先進安全装置の装着率は、「衝突被害軽減ブレーキ」で約40%、「定速走行・車間距離制御装置」においても20%近くに達しています。さらに、内閣に設置された高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部が策定した「官民ITS 構想・ロードマップ2016」では、加速・操舵・制動のうち複数の操作を一度にシステムが行う「準自動パイロット」について、2020年までの市場化を目標として示しており、今後ますます自動車技術の高度化が進むと予想されます。

また、少子高齢化は確実に進行しており、総人口は既に減少へと転じています。内閣府が公表した「平成28年版高齢社会白書」では、2030年の国内総人口について2015年時点（1億2,711万人）より1,049万人少ない1億1,662万人と予測しており、その内65歳以上が占める割合は26.7%から31.6%まで上昇するとみえています。人口の減少と高齢者比率の増加は、新車販売市場の低迷及び車両保有台数の減少につながると考えられます。

先進安全技術の普及による事故の低減と

少子高齢化による車両保有台数の減少は、残念ながらどちらも自動車修理市場を縮小させる方向に働きます。

さらに先進安全装置をはじめとした自動車技術の進化は、整備・修理工場に新たな設備投資を要求します。国交省の開催する「自動車整備技術の高度化検討会」では、スキャンツールの新たな標準仕様として、先進安全技術への対応が議論されています。仮に各種センサーのエーミング作業に関する情報が公開された場合、実際に作業するためにはターゲットなどの各種専用工具が必要となります。また、現状においてはメーカー、車種、センサーごとに必要となる専用工具が異なるため、各種メーカーの車両を扱う整備・修理工場が、すべての入庫車に対応する設備機器を備えることは容易ではありません。

市場の縮小に加え、最新技術搭載車の普及による技術と設備に対する要求の高度化、人材不足及び後継者不在などによる自主廃業も重なって、自動車修理工場は今後減少することが予想されます。

では修理工場が今後も経営を続けていくためには、どのような対応が求められるのでしょうか。

まず一つ目には、工場の「大型化」が考えられます。自動車修理市場の縮小は一般の修理工場だけではなく、ディーラー内製工場の経営にも大きな影響を及ぼしています。入庫台数の減少により、1社単独では钣金塗装事業の利益確保が難しくなったため、地域の同系列ディーラーと共同で工場

を運営するケースも見られます。さらに入庫台数が減少した場合、内製化の方針を転換し地域の専門工場への委託を検討するディーラーも現れることが予想されます。

そこで委託先として選ばれるのは、次々登場する新技術へ適時対応できる人員、技術力、設備機器、資本を備えた大型工場です。地域有数の大型工場となれば、各メーカー系のディーラーから自動車補修事業の委託を受ける可能性もあるでしょう。

もう一つの方法として、工場間における「ネットワークの構築」が考えられます。技術の進化に伴い、自動車の修理・点検・整備に必要な設備機器は増加しています。この先、自動車技術のさらなる高度化が予想される中、そのすべてに個社で対応し続けるためには、ある程度の資本が必要となります。1社単独ですべての作業に対応できる環境を用意することが困難な場合には、地域の工場と協力関係を築き、作業を分担する方法もあるのではないのでしょうか。

アフターマーケットを取り巻く環境が激変する中、整備・修理工場の経営者には変化に対応した経営戦略の構築が求められています。



NGP組合員探訪

【第2回】
東北支部 (その1)

今回は全国 142 社 189 拠点の NGP 組合員の中から、東北支部に所属する 4 社をご紹介します。

(株) 福島リパーツ



NGP代表
渡辺 辰美

創業は1982年5月、NGPグループへの入会は1990年10月です。福島県全域を商圏とする当社は、地域内においてリサイクル部品事業を開始した時期が早く、長年培った豊富な知識と丁寧な対応で、お客様に安心して部品を購入して頂けるよう努めています。また、法令遵守及び環境問題対策を最重要課題と認識し、ISO規格への対応を積極的に推進しており、これまでにISO14001、9001、27001の認証を取得しました。

清掃活動や販売促進キャンペーンなど、地域社会貢献や顧客満足度向上に向けた活動も展開しています。これからも社員一同努力して参りますので、よろしくお願いします。

【所在地・お問い合わせ先】

福島県郡山市安積町笹川字北向72
TEL : 024-946-1180 FAX : 024-937-0023
<http://www.ngp-gr.jp/k205/>

(有) 三陸パーツセンター



NGP代表
沼崎 誠公

当社は岩手県の沿岸部を主な商圏として1988年に創業、1999年9月にNGPへ入会いたしました。

東日本大震災より6年を迎え、ご支援頂きました皆様々に心より感謝申し上げます。

復興は進んでおりますが、未だに被災車両が海から引き上げられるなど、各所に震災の爪痕が残っております。各種災害・台風などの被害を受けた車両も適正に処理することで、地域社会に貢献していきたいと考えています。そして、NGP組合員として優良なリサイクル部品を生産し、ユーザー様、自動車修理業界へ必要とされるよう、努力を続けて参ります。

【所在地・お問い合わせ先】

岩手県下閉伊郡山田町織笠15-21-1
TEL : 0193-81-1155 FAX : 0193-82-0044
<http://www.ngp-gr.jp/k211/>

(株) ナプロアース



NGP代表
相浦 光二

当社は1996年に創業、2001年にNGPグループへ加入して、福島県を中心にリサイクル部品の販売及び車両買い取りを行っています。

自動車リサイクル法等の法令を遵守した適正処理の徹底、リサイクル部品においてはNGPグループの基準に則り、常に高品質かつ低価格を突き詰め、お客様に喜んでいただけるサービスの提供を心掛けております。

また、社会貢献やスポーツチームの応援などを通じて、地域に密着し皆様から必要とされる企業を目指しています。

【所在地・お問い合わせ先】

福島県伊達市梁川町やながわ工業団地63-1
TEL : 024-573-8091 FAX : 024-573-8092
<http://www.ngp-gr.jp/k213/>

(株) アイエス総合



NGP代表
高橋 英樹

2003年8月に創業、翌年5月にNGPへ入会した当社は、宮城県登米市に工場と物流センターを置き、仙台市内、岩手県奥州市に営業拠点を設け、宮城県全域及び岩手県南部を商圏としております。

物流センターを一昨年新設し、パーツ、新品・中古のタイヤ及びホイールの在庫を大幅に増やしました。また、バッテリー再生機も10台導入し、純正部品からアフターパーツまで、地域のお客様に幅広く対応できる体制を構築いたしました。

これからも多くの商材を皆様にご提供していきたいと考えております。なんでもご用命ください。

【所在地・お問い合わせ先】

宮城県登米市迫町佐沼字散田56-1
TEL : 0220-21-5153 FAX : 0220-22-2532
<http://www.ngp-gr.jp/k216/>

【第3回】

「初級研修会」 厳格な品質基準を学ぶ NGPグループ独自の

今 回のテーマは前回に続き、1986年のNGPグループ創設当時より特に注力している「教育」です。その中から、前回お話ししました第一の研修である「基礎研修会」を修了したNGP組合員社員に、次なるステップとして受講が義務付けられている「初級研修会」についてお話しします。

基礎研修会では、NGPグループが30年の歴史の中で培った基本理念を学び、品質を“合わせる”ことを体得しますが、初級研修会では基礎研修会を受講し体得したことを前提に、NGPグループ独自の統一された厳格な品質基準を正確に学びます。

初級研修会は、生産管理者とフロントマン、営業マンの3部門に分かれて研修を実施しますが、生産管理者とフロントマンはまず、傷や凹みの取り方及び表記の方法、登録可能な部品と

不可能な部品との選別方法など、生産したNGPリユース部品をオンラインシステムに登録する際の現時点でのルールを、細部まで正確に学習します。その上で、隠れた売れ筋商品や、お客様が部品の状態を把握しやすい写真の撮影方法などといった、実践的ノウハウのレクチャーを受けます。

その後フロントマンは、オンラインネットワークにNGPリユース部品を登録する際のルールに加え、お客様よりお問い合わせを頂戴してから部品を受発注するまでの流れ、お客様や生産管理者、他のNGP組合員とのコミュニケーションの取り方

を学びます。ここでは技術論に終始せず、どうすればお互いに気持ち良くビジネスできるか、その心構えを理解することを重視しています。

この初級研修会を、NGP全組合員が受講することで、私たちはNGPグループ独自の品質基準に基づき統一された品質でリユース部品を生産し、その統一された品質をお客様に説明しお届けすることを可能としています。今回は、初級研修会修了後1年以上経過した主任～課長クラスがマネジメント能力を習得するための必須研修会、「中級研修会」についてお伝えします。(続く)



NGP組合員 かわら版

日頃ご愛顧いただいております整備・修理工場の皆様へ感謝の気持ちを込めて 「NGP30周年ありがとう キャンペーン」開催中

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合(佐藤幸雄理事長)は4月1日～6月30日までの3ヵ月間、「NGP30周年ありがとうキャンペーン」を開催しています。

創立30周年を迎えた感謝の気持ちを整備工場様や钣金塗装事業者様に還元する特別企画で、期間中NGPのリサイクル部品1点ごとに必ず添付されるギャランティシールを5枚集め、キャンペーン告知チラシ裏面の応募用紙に貼り付けてご応募いただきますと、抽選で合計130名の方に「サマージャンボくじ」をプレゼント致します。

応募用紙は各NGP組合員より皆様に配布するほか、当組合Webサイト(<http://www.ngp.gr.jp/30th/>)からダウンロードすることも可能です。

なお、ギャランティシールの下側に付

いているベルマークは、必ず切り離してからご応募下さい。切り離れたベルマークは近隣の学校にご提供いただき、地域社会への貢献にご活用いただければ大変嬉しく思います。

お一人様何口でもご応募いただけます。皆様からのご応募をお待ちしております。

【プレゼント内容】

- 1等：サマージャンボくじ300枚.....10名
- 2等：サマージャンボくじ100枚.....10名
- 3等：サマージャンボくじ 30枚.....10名
- 4等：サマージャンボくじ 10枚.....100名



NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

平成29年2月: **2,813t**



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

平成29年2月: **9.4t**

※1自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の50部品(左右ある部品を含む)と64部品を対象に算出した数値です。

※2リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

NGP協同組合は全国各支部で順次、自動車の解体・資源抽出に関する技術研修を開始しております。これは、同組合と業務提携を結んでいる東日本自動車解体処理協同組合の協力により実現したもので、今まで分別していなかった素材を分別し各社の素材ビジネスの選択肢を広げるとともに、純度の高い資源の提供により国内資源の乏しい日本の資源循環に資するための精緻な解体の知識・技術を習得することを狙いとしています。

去る3月10日に本部会議室（東京都港区）で開催された南関東支部向け研修では、冒頭に東日本自動車解体処理協同組合の坪千代志代表理事が、「自動車の進化により、使われている素材も大きく変化しています。素材に関する知識を得

た上で、会社ごとに仕事の流れや費用対効果などを検討し、経営に役立てていただければ幸いです」と挨拶をされました。

その後、東日本自動車解体処理協同組合の榎本春夫副理事長を講師としてお招きし、鉄と各種非鉄金属の見分け方、共同出荷のメリット、出荷時の注意点などについて、実物や実例を用いて分かりやすく説明していただきました。

研修後、NGP協同組合の青木金也理事は「貴重な情報をご提供していただき、大変有益な研修会となりました。これを活かし、ぜひ各社で会社の収益につなげていただきたいと思います」と総括し、研修で得た知識の活用を組合員に呼びかけました。



挨拶する東日本自動車解体処理協同組合・坪千代志代表理事



東日本自動車解体処理協同組合・榎本春夫副理事長は、素材ビジネスの業界動向を交えながら、自動車からの資源抽出技術について解説

第2回ヘッドランプ補修技術研修会を開催

安価な自費修理に役立つリユースヘッドランプの補修技術を習得

2月21日から24日までの4日間、(株)あいおいニッセイ同和自動車研究所・埼玉センター（埼玉県さいたま市）で、「ヘッドランプ補修技術研修会」が開催されました。

2回目となる今回は2日間×10名×2組で開催され、初日にヘッドランプの構造や素材に関する最新の動向及びハウジング支持部の補修工程を、2日目に傷や黄変のあるヘッドランプレンズの補修工程を学びました。

初日の開会挨拶でNGP協同組合の玉木基裕専務理事は、「自動車保険等級制度改定以降、安価な自費修理を選ぶカー

オーナーが増えており、特に小破ではヘッドランプを損傷するケースが多いため、ヘッドランプのリユース部品を活用できる機会は増えています。この研修会を通じて、ヘッドランプを補修する技術をしっかりと身に付け、補修ヘッドランプの生産に取り組んで下さい」と、同研修会開催の意義を説明しながら受講生を激励しました。

受講後の感想として、(株)テラグパーツの神谷文博さんは、「今回学んだハウジング補修はいずれの方法も、強度実験の結果が数値で裏付けられているため、自信を持って作業に取り組めます。しか

し手間の掛かる作業ですので、適正な利益が得られる部品を選んで生産していきます」と、ヘッドランプの生産・販売拡大に強い意欲を見せています。



ヘッドランプ補修の意義を説明する玉木基裕専務理事

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
東北	株式会社エコブリッジ	移転	〒039-2241 青森県八戸市大字市川町字下郷45-10 TEL0178-38-6558 FAX0178-38-6571	29年3月27日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<http://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<http://www.ngp.co.jp/>